

URA の海外旅日記 2009

浦 達 雄

I. はじめに

本稿の目的は 2009 年に体験した海外旅行について、旅日記風に紹介することである。具体的には、3 月のキエフ（ウクライナ）、8 月の営口（中国）、9 月のバンコク（タイ）について、筆者の実体験をもとに話を進めたい。独断と偏見の部分があると思うが、旅日記なので、ご容赦願いたい。

II. ウクライナの首都・早春のキエフを歩く（2009 年 3 月 19 日－24 日）

1. ウクライナ・キエフ行き

2009 年 3 月 19 日から 4 泊 6 日の旅程で、ウクライナのキエフへ出かけた。ウクライナと言えば、黒土地帯（チェルノゼム）・穀倉地帯（小麦）・黒海・オデッサ程度しか頭に浮かばなかったが、現地では色々と学ぶことが出来た。1 つはヨーロッパで 2 番目に面積が広いこと（1 番はロシア）、2 つは意外と寒いこと、3 つはウクライナ語があることだった。そして、最後はチェルノブイリ。チェルノブイリはキエフから近いとか…。これは現地の学生から指摘されて、思い出した次第。事故の影響もあってか、現地滞在の日本人の間では、水道水は飲まない方が賢明とのことだった。

ウクライナ行きは急に決まった。出発の 1 週間前だ。キエフ国立大学で、日本文化の話をしなにか、と知り合いからメールが入って、翌週の金曜日には機中の人になった。

水曜日午後のメールで、即座でキエフ行きを決断し、夕方に JTB へメールを送って、金曜日に飛行ルートが確定した。飛行機はルフトハンザ（LH）で、費用は 24 万 3,120 円（オイルサーチャジ代・空港諸税込み）と高い。ルートは関西国際空港⇒フランクフルト⇒キエフだが、帰路は関空便が取れず、成田着となってしまった。

一方、発表のテーマを決め、レジメ作成をしないとイケない。キエフ国立大学の日本人スタッフには土曜日までにレジメを作成して送付し、その後、パワーポイントの作成に入った。パワポは月曜日に完成したので、早速、送信して、慌しく過ごした。テーマは「日本文化－伝統と生活様式－」。

2. 2009 年 3 月 19 日（木）：大阪⇒フランクフルト⇒キエフ

LH は関西国際空港を 10 時 40 分に出発。この便は 2 月の大阪観光大学のパリ実習での使用機で、これまで 3 度は乗っており、慣れた飛行となった。機中、映画の最中におにぎりやサンドイッチが配られるが、1 人どちらか 1 個となる。しかし、配布後は残りをギャレーにおいてあるので、そこで、けち臭いが、これを何個でも失敬することになっている。後で貴重な食料となるからだ。

フランクフルトには現地時間（時差は8時間）15時過ぎに到着。1時間も早く着いたらしい。経由便で、キエフ行きは22時5分発。と言うことは空港内で7時間ほど滞在する訳だ。そうすると、一時ドイツに出国となるが、その気力もなく、ソファーや椅子で寝ることにした。荷物は手荷物だけにした関係で、移動の際は重いので、なるべく移動しないようにした。フランクフルトは空港が大きいので、ターミナルが変わるたびに、セキュリティが入るので、本当に面倒だ。

16時30分、のどが渴いたので、0.5リットルのミネラルウォーターを買った。3ユーロ（1ユーロ=130円）と高い。ゲートで待っていると、外国人が話しかけてきた。11時に着いたカナダ人の男性で、やはり待ち時間は6時間らしい。カルガリーからソフィアに行くとか。

22時24分（日本時間6時24分）テイクオフ。フライト2時間ちょっとで、1時38分（日本との時差は7時間）キエフの空港にランディング。未明とはいえ、キエフ国立大学の日本人スタッフの方のお迎えがあった。市内のホテルまでは車で1時間程度で、2時30分に着いた。ホテルの屋号はkreschatik（フレシャーチク）で、ヨーロッパ広場と独立広場の中間に位置する便利な場所にあった。大学にも近いらしい。部屋は507号室で、何とか3時にはベッドに入ることが出来た。3月とはいえ、キエフはまだ寒い。

3. 2009年3月20日（金）：キエフ国立大学&日本大使館

まだ眠いが、7時20分起床。7時45分から地下1階のレストランで朝飯を食べた。一応、バイキングだが、コーヒーは無かった。8時30分に日本語を学ぶ女子大生のお迎えがあって、タクシーでキエフ国立大学へ向かった。身長の高い女性で、学部生とのこと（写真1）。10分でキエフ国立大学へ着いた。9時から「第1回全ウクライナ 日本語日本文化国際シンポジウム」が始まった。日本国大使とか、来賓の挨拶が続き、当方は10時30分から11時まで、「日本文化-伝統と生活様式」の話しをした。話は日本語で、パワーポイントを使用した。会場には100人程度の参加者があったと思う。日本で言えば、英語教育研究会の全国集会と言う雰囲気だった。今回の会議は、国際交流基金のサクラネットワークの資金を活用したらしい。

昼飯後は、ティーセレモニー（茶道）とか、フラワーアレンジメント（華道）などのイベントがあった。15時から分科会で、18時まで熱心に発表が行われた。4分科会があって、それぞれ10数人ずつ、ウクライナ全国から発表者があった。発表者は現場の教師・学生・院生などだ。「日本の諺」「日本語の法律用語における多義性」「日本のヤクザ使用語彙の特徴」な



写真1 通訳を務めた女子学生



写真2 ガイドの女子大学院生

どのレポートがあった。

夜は19時から日本大使館で、大使主催のレセプションが開催され、40人ほどの参加者があった。玄関先の警備は厳重だった。日本食が振る舞われ、おにぎり・いなり・マグロの寿司・味噌汁など、いずれも美味しいと思った。20時30分に終わって、タクシーに便乗してホテルへ帰った。10分程度だった。

4. 2009年3月21日(土)：キエフ市内観光

3日目は担当者の配慮で、ミーティングは免除となり、女子大学院生の案内で、キエフ市内を歩くことになった(写真2)。まず銀行で両替をした。100ドルは815グリヴニャ。1グリヴニャ=約12円。グリヴニャは世界同時不況の影響で、価値は60%程度に留まっているらしい。メインの見学先はミハイロフスキイ寺院、フィイシカ広場、ボグダン・フメリニツキイ像、そして世界遺産の聖ソフィア大聖堂、黄金の門、国立オペラ劇場、シェフチェンコ像、キエフ国立大学、さらにはフレシチャーティク通り、独立広場など。独立広場の地下には立派な商店街が整備されていた。街の雰囲気はロシアの都市とほぼ同じような気がした。地下商店街は独立10周年を記念して2001年に整備されたらしい。

フィイシカ広場は、聖ソフィア大聖堂前にある広場で、ボグダン・フメリニツキイ像がある。17世紀に対ポーランド独立をかけてロシアと組んで蜂起した人物である。

聖ソフィア聖堂は11世紀の建築で、現存するウクライナ最古の教会である(写真3)。17世紀にウクライナ・バロック様式に改装された。黄金の門は11世紀前半、キエフ市街を取り囲む城壁が築かれ、その時建造されたものである。1240年、モンゴル軍によって破壊された。現在、修復が進められている。

フレシチャーティク通りで立ち寄った土産品店は民芸品が主体だった。ピーサンカというイースターの時の伝統的なプレゼント(色付けをした楕円形状の飾り置物)を買った(写真4)。1個は7グリヴニャで10個買った。1個は女子学生にプレゼント。それから、彼女推薦のCDを買った。ウクライナで有名なロックのCDは25グリヴニャ、ポップスは30グリヴニャだった。昼食は彼女おすすめの郷土料理のレストラン。人気の店で、安くて美味しいらしい。2人で41グリヴニャだった。名物のワレーニキ・ボルシチなどを食べた。売店で買った水(0.5リットル)は4グリヴニャ。フレシチャーティク通りでは、アディダス・フィラ・ベネトンなどのブランドショップが目についた。



写真3 聖ソフィア寺院



写真4 ピーサンカ

彼女の話では、路線バスは1.5、メトロは1.7グリヴニャとのこと。なお、彼女の奨学金は1,500グリヴニャ／月らしい。お礼に日本から持参したマフラー、時計付きの電卓などを差し上げた。電卓が免税タバコの景品と聞いて驚いていた。

15時には解散し、その後はホテルの部屋で休憩した。ところで、ホテルだが、タオル類はあるが、スリッパ・ガウンはなし。歯ブラシとか、ドライヤーもない。あるのは無用のビデくらいか。湯沸かし用の電気ポットもなかった。まあ、東欧のホテルの標準的なスタイルだと思う。一応3星…。

5. 2009年3月22日（日）：キエフ⇒フランクフルト

帰国日である3日目は未明の3時起床。3時30分からホテルのレストランへ。24時間営業なので、行ってみると、閑散としていた。オレンジジュースを飲んだ。1杯は14グリヴニャと高い。4時のお迎えのところが、いつまでたっても来ないので、フロントから電話をしてもらった。結局、4時30分、ホテルをスタート。暗い車中で今回の謝金を頂いた。謝礼は500米ドル、交通費2,700米ドルの合計3,200米ドル。キャッシュである。現金で頂いても…。車内が暗くて、車は揺れるので、領収書を書くのに、苦労をした。

タクシーを飛ばして、空港へは4時55分に着いた。チェックイン終了の5分前で、係りの女性から「ハリ アップ」と言われ、肝を冷やした。

LHは6時にテイクオフ、フライトは2時間ぐらいで、フランクフルトへは7時20分に着いた。また乗換えで、これからが長い。フライトは12時55分発で、今度は閑空行きではなく、成田行きとなった。閑空便が満員でとれなかったからだ。結局、空港内で5時間ほど暇をつぶして、14時にテイクオフとなった。先が長い。

6. 2009年3月23日（月）：フランクフルト⇒中部国際空港⇒大阪

8時10分、機長からドイツ語の放送が急に入り、「名古屋…」を繰り返していた。よもやと思ったら、よもやで、大変なことになった。成田で貨物機事故が発生し、中部国際空港で一時待機するとのこと。結局、8時45分、中部国際空港にランディング。30分ほど機中で待機することになった。しかし、事態は好転せず、中部国際空港で入国することになった。9時40分に出国手続きをすませて、外へ出るとマスコミの取材が待っていた。NHKをはじめ2社から取材を受けたが、どうせボツだと思う。新幹線・特急と乗り継いで、結局、13時30分に職場復帰となった。新幹線などの交通費はLH持ちで、後日請求した。

Ⅲ. 中国営口市での天沐温泉度假村体験

1. 中国・営口市行き

2009年8月17日（月）から3泊4日の旅程で、中国・大連郊外の営口市で開催された「営口国際海浜温泉節」に参加した。この話があったのは7月下旬で、旧知の日本在住の中国人からの紹介である。どうやら、当初、予定した人の替りらしい。8月の中旬はマイレージで北京を訪問し、その足で、長沙へ行こうと計画していたが、行きつけの北京国際飯店から宿泊OKのメールもなく、さらに業務多忙で、ANA側へ予約の再確認を忘れた関係で自動的にフライトがキャンセルになっていたことが幸いした。紹介者の話では、すべて招待とのことだっ

たが、再確認すると、中国国内は招待とのこと。そこで、関西国際空港からANAのマイレージを使って大連まで行こうと思ったところ、ANA便は無しで、結局、成田出発となった。成田出発の場合は、大阪-東京間は行きだけが、マイレージに含まれ、24時間以内なら乗り継ぎOKとのこと。そのため、前日から東京滞在が可能となった。しかし、帰国日の東京-大阪のフライトはチケットを買う羽目になった。

2. 2009年8月17日(月)：成田⇒大連⇒営口

日暮里発6時35分の京成のスカイライナーに久しぶりに乗車した。気合が入って始発電車となった。しかし、日暮里に着く前に、間違えて西日暮里で下車してしまい、田舎暮らしの長さを露呈してしまった。車中では隣におばさんが座って、海外旅行の話が弾んだ。これからルフトハンザでフランクフルトへ向かい、リトアニアに行くとのこと。4泊6日の旅程は3人ツアーで、すべて自分達で行動するらしい。旅行好きな方で、色々と楽しい話を聞かせて頂いた。

7時29分、第1ターミナル到着。チェックインはまだなので、8時から朝食を食べた。和定食は980円と高い。NH903便は11時7分テイクオフ。現地時間(日本との時差は1時間)13時32分、大連の周水子国際空港にランディング。空港では先着の日本からの2人、韓国からの5人、そして政府の関係者が待機し、その後、お迎えの車に乗って、高速道路を飛ばした。2時間ほどで宿泊先の営口市熊岳温泉の天沐温泉度假村に到着した。2日ほど前にオープンしたホヤホヤの温泉ホテルだった。熊岳(ゆうがく)の意味は、熊の形をした山があるからとのこと。

18時の夕食まで時間があつたので、部屋でノンビリしようとしたところ、部屋は工事中で使えず、部屋替えとなり、初日からトラブルが発生した。夕食時、レストランへ行くと、台湾と中国・長沙からの温泉ホテルの旧知の関係者にお会いした。長沙の方には、日本から持参した浴衣を差し上げた。彼女は聞くところによると、もと放送局のアナウンサーで、今回はイケメンの男友達を同伴していた。

夜は天沐温泉度假村的温泉施設の見学をした。露天風呂やプールを備えた本格的な施設だが、入浴は当然のことながら水着の着用となる。着替えが面倒なので、足湯だけ体験した。

フロントで頂いた会務指南を読むと、招待客は500人に及び、中国国内の温泉関係者・温泉ホテル関係者・行政関係者、海外からは温泉関係の専門家の出席があるとのこと。日本からは我々3人(通訳を兼ねた中国人1人、日本人2人)だけ。今回の温泉節は、国際温泉論壇・温泉名家講堂(講義)、そして市内観光が主体である。

3. 2009年8月18日(火)：開幕式、営口市内観光

2日目の午前は開幕式と天沐温泉度假村的の公式見学・歓迎ランチ、午後から営口市内観光(植物園・望儿山・営口港など)、そして夕食、歓迎のコンサートなどがあつた。

開幕式では、女子十二楽坊らしきグループの演奏からはじまり、式典は元外務大臣・政府関係者などが参加する本格的なものとなった。女子十二楽坊はてっきり本物と思ったが、他の日本人参加者はニセモノでは、と言う感想だった。しかし、聞いた曲ばかりで、てっきり本物と思ったが…。壇上では、国内外からの招待者・政府関係者など20数人が紹介を受けた。会場には市民をはじめ500人程度はいたと思う(写真5)。



写真5 開幕式での記念撮影



写真6 天沐温泉の室内ジェットバス



写真7 天沐温泉のスタッフと家族風呂の外観



写真8 營口港でのバスガイド

開幕式後は、まず天沐温泉度假村の公式見学となった。ホテルはコテージ式で、客室棟は2階建て、温泉施設にはプール、ジェットバス（写真6）、露天風呂、家族風呂（写真7）などがあった。家族風呂以外は、水着の着用となる。市内観光では營口市の観光地巡りをした。個人的には植物園とか望儿山が面白いと思った。植物園は日本統治時代のもので、最後の見学先は營口港となった（写真8）。夕食後、野外で歓迎コンサートが行われ、市長の席の後ろに座った関係で、翌日の新聞を見ると、我々の姿が写されていた。舞台では漫才なども行われた。歌の合間にゲストも登場した。女性の老人は「我是中国人」を大声で連発していた。

関係者の話をまとめると、中国の温泉地は、約3,000カ所と言われたが、この10年間で約600カ所増え、現在、約3,600を数えるとか。最近では大型の温泉ホテルの開発ブームが続き、中国全土で100程度の温泉ホテルが誕生したと言われている。なお、台湾は741の温泉ホテル、22の温泉地があるとのこと。

4. 2009年8月19日（水）：開幕式、国際温泉会議

3日目は一時大雨となった。朝、朝食のため、部屋を出ようとしたところ、鍵が開かず、あわててしまった。フロントに電話してもつながらず、通訳の方に電話しても不在で、大変なことになった。部屋の孤島である。その時、廊下を誰かが通る感じがしたので、内からドアをたたいて、知らせると、旧知の日本語が分かる中国人の方で、早速、フロントへ知らせて頂い

た。フロントの係りが、何度作業をしても直らないので、呆れてしまった。お昼に帰ると、やっと直っていて、胸をなでおろしたが、某さんの話が気に食わない。「大切なお客様ですから、大急ぎで直しました」。こっちの言い分は「大切なお客様なら、鍵の機能しない部屋に最初から泊めるな」と言うことになる。VIPなので、部屋には食べきれないフルーツがあって、我々は確かに大切なお客様だったらしい。

9時過ぎから今回メインの国際温泉論壇が始まり、日本・中国・台湾・韓国・ヨーロッパなどの温泉関係者の口頭発表が行われた。しかし、テーマに統一性がなく、少し不満だった。開始前に地元のマスコミからインタビューを受けた。営口市の感想とか、日本の温泉地の現状などを聞かれた。通訳の方の話では、「すらすらと答えるのに、感心しました」とほめられたが、以前は、事前に質問内容を聞いて、回答を用意して、インタビューに答えた方もいたらしい。これでは、インタビューにならないと思うが…。

昼食の後は、ホテルで休憩があったので、その間に入浴をした。水着は備え付けだったが、水泳パンツを持参していたので、係りが驚いていた。プールに行くと、我々のバスガイド嬢が仲間と一緒に泳いでいたので、2人で露天風呂巡りを楽しんだ。水着での混浴入湯も実に楽しいと思った。

14時30分から16時30分までは温泉名家講堂（講義）で、中国・台湾・韓国・ヨーロッパの温泉専門家が講義を行った。終了後、地元のマスコミから取材を受けて、日本の温泉開発の失敗談、そして中国への教訓などを質問された。

17時10分から営口市内へ貸切バスで出かけて、海鮮料理の夕食となった。営口市は遼東湾に面しており、海鮮料理が名物らしい。食後、地場のスーパーでジャスミン茶の買物をしたが、今回の滞在では唯一の消費となった。5袋（1袋は50g）で30元だった。

夜はホテルの温泉施設に再度入浴したが、またガイド嬢と遭遇し、雨の中、露天風呂巡りをして、記念撮影を行った。カメラは持ち込み禁止と言われたが、持ち込んでしまえば、OKという感じだった。今度はいとこの男の子（高校生ぐらい）と一緒に来ており、彼が我々の邪魔をしていた(?)。

5. 2009年8月20日（木）：営口⇒大連⇒成田⇒大阪

4日目は帰国の移動日だったが、通訳を兼ねた同行者は、時間をみて、村の共同湯に行って、写真撮影をしたとのこと。村の共同湯の存在は講義で聞いていたが、行けなくて、本当に残念な思いをした。

ところで、天沐温泉度假村には、日本式の家族風呂、マッサージルームなども整備され、温泉施設として充実していると思った。ただし、泉質重視と言うよりは、浴槽の形態とか温泉に付加価値をつけるタイプが好みらしく、漢方薬湯・溶岩洞湯・足底按摩湯・足湯などバラエティに豊んでいた。スタッフの数が多く、露天風呂を2人で楽しんでいると、湯茶やタオルのサービス、雨が降ると傘かけのサービスがあって、落ち着いて入浴が出来ないと感じた。中国では、富裕層を中心として、温泉生活を楽しむライフスタイルが定着しつつあり、こうしたタイプの大型温泉ホテルは、今後も増加傾向にあるとのこと。

9時10分、ワゴン車は出発、180kmの行程とか。11時20分に大連の周水子国際空港に着いた。NH904便は13時30分にテイクオフ、成田には16時55分（日本時間）にランディング。17時55分成田発の関西国際空港行きに何とか乗り込んで、時間的なロスを無くし、

21 時前には大阪の宿舎に着いた。チケットは株主優待券を使用したので半額の 1 万 2,300 円だった。羽田空港経由だと、成田-羽田間のリムジンバス代金 3,000 円が余分に掛かるので、時間的にも費用的にも賢い消費者となった。

IV. タイ・バンコクのラチャプリユクカレッジ訪問

1. バンコク行き

ひょんなことからバンコク行きとなった。旅程は 2009 年 9 月 7 日から 11 日まで。

バンコク行きはこれで 14 回目となった。ただし、10 回は周辺国へ行く際に、前後泊しただけである。具体的な周辺国とは、ネパール・ミャンマー・ブータン・カンボジア・ラオスとなる。したがって、直のバンコク訪問は 4 回だけで、最初は 1982 年 3 月 23~28 日 (5 泊 6 日) で、バンコクからチェンマイ方面のタイ周遊、あとの 3 回はバンコクとその周辺となる。最近では、2002 年 12 月 21~25 日 (3 泊 5 日)、2006 年 3 月 4~7 日 (2 泊 4 日)、そして、今回の 2009 年 9 月 7~11 日 (3 泊 5 日)。つまり、21 世紀に入って、3 度目の訪問となった。

今回の訪問の目的は、ラチャプリユクカレッジ (RC) との交流協定 (研究及び教育上必要とする分野での交流に関する覚書) である。大阪観光大学からは学長をはじめ 4 人が参加した。

2. 2009 年 9 月 7 日 (月) : 大阪⇒シンガポール⇒バンコク

関空で両替をした。9,888 円が 3,200 バーツ。1 バーツは 3.09 円で、レートはあまりよくない。飛行機は、どう言う訳か、SQ (シンガポール航空) で、シンガポール経由となった。

シンガポールまでのフライトは 6 時間程度で、その間、映画「60 歳のラブレター」「余命 1 カ月の花嫁」などをみた。シンガポールのチャンギ国際空港はウワサ通り広かったが、セブンイレブンがあったのには驚いた。

結局、20 時にバンコクの新国際空港であるスワンナプーム国際空港着。2006 年 9 月に開港した空港で、はじめての利用となる。RC 側の日本人スタッフ N 先生と TOP さんのお迎えがあった。RC のリムジンで移動し、21 時 10 分にはホテル着。メンバーで荷物チップの確認をしたところ、40 バーツが主流となった。TOP さんの話では 20 バーツでよいとか。

ホテルはソフィテル センタラ グランド バンコク ホテル。フランス系のアコーグループのホテルだ。1 泊朝飯付で、1 万円ちょっととか。

3. 2009 年 9 月 8 日 (火) : RC 公式訪問

8 時起床。8 時 30 分、バイキングの朝飯。日本食はなく、オムレツと麺が美味しいと思った。RC 側のお迎えがあって、9 時 45 分ホテル出発、RC には 10 時に到着した。RC は 2005 年開学の新しい大学だ。学長・同妻・同姉・副学長などのお迎えがあった。同族経営らしい。11 時まで談笑しながら休憩した。その際、奥さんから「タイは何回目ですか」、さらに「ゴルフはしますか」と英語で聞かれたが、ゴルフの発音が聞き取れず、何度も聞き返した。突然、ゴルフの話をし出すので、戸惑ってしまったのが真相だ。

当初の学生数は 450 人で、現在は 3,000 人と多い。教員は 140 人とか。ホテル&ツーリズム専攻は 600 人で、日本語を学ぶ学生は 50 人程度らしい。

12時10分から歓迎の昼飯となった。学長の母上が経営するレストランで、タイ風+中華風の料理だった。ツバメの巣の揚げ物が出た。

13時10分から交流協定書の調印式。儀式は1時間程度で終了した。記者が10人近くいたと思う。学長が取材に応じていた。日本語⇒英語⇒タイ語なので、ややこしい。

その後、キャンパス内を見学した。ビルは3棟で、主にホテル&ツーリズムコースの教室などを見学した。50人の授業クラスに入って、大学案内と大阪から持参したキティーちゃんのボールペンを差し上げた(写真9)。16時17分に大学を出発し、ホテルには16時43分に到着。

夜は学長の接待で、チャオプラヤ川のディナークルーズとなった。ホテルを17時6分に出発し、中心部に向かって、船着場には17時45分に着いた。外はスコールで大雨だった。

クルーズは19時30分から21時まで。日本側は4人、RC側は学長・副学長・学部長・N先生が参加した。男だけである。ディナーはバイキングで、日本料理として巻寿司があった。チャオプラヤ川のクルーズだが、ワット・アルーン(暁の寺)をはじめとして、マイクで説明があった。何せ雨なので、写真撮影に苦勞をした。乗船後、我々の1階フロアで、踊り子によるタイダンスがあり、クルーズ中は2階のフロアで、ライブ演奏やダンスタイムがあった(写真10)。

帰路は、21時13分に船着場を出発し、21時34分にホテル着。船着場で、学部長が雨傘をプレゼントしてくれた。洋傘ではなく、タイ傘である。

4. 2009年9月9日(水): バンコク市内&アユタヤ

7時起床。7時30分から朝飯。予定を変更して、午前はバンコク市内、午後はアユタヤツアーとなった。付き添いは、RC側は学部長・N先生・女性の先生(名前は失念)の3人。

9時15分ホテル発、10時10分に王宮着。英語のガイドが着いた。ワット・プラケオを最初に見学し、後に王宮へ。VIP待遇で、荷物検査無しだった。とにかく暑い。

11時30分発、11時45分ショッピングセンター着。有名な日本食レストラン「ふじ」で昼飯となった。学長がレストランでお待ちだった。当方はテンプラセット140パーツにした。寿司セットは170パーツ。和食レストランはバンコクで100軒以上あるとか。

食後の13時にアユタヤへ向かって出発。高速を飛ばして、14時20分にアユタヤの日本人町に着いた。日本人町は山田長政の関係で知られる遺跡だ。見学後、奥の売店で、タイガーバ



写真9 ラチャブリユックカレッジの講義風景



写真10 チャオプラヤ川の遊覧船のダンサー

ーム 35 パーツ×2、象のキーホルダー 6 個入り 120 パーツなどを購入した。帰路、路上のオバちゃんからポーチ 7 袋を 1,000 円で買った。最初は 5 袋、そして 6 袋、最後は 7 袋となった。

その後は、ワット（寺院）めぐりで、ワット・パナン・チューン、ワット・ヤイ・チャイモンコン、ワット・プラ・マハタートなどを見学した。ワット・パナン・チューンは高さ 19 m の黄金の仏像で知られ、地元の参拝客が実に多かった。ワット・ヤイ・チャイモンコンは涅槃仏と仏塔で知られる。仏塔の階段を登ってみた。ワット・プラ・マハタートは巨大な菩提樹の木の幹に埋もれる仏像が有名な寺院だ。

帰路は交差点にいる象の集団を車窓見学して、17 時 45 分発、ホテルには 19 時着いた。夕飯はホテルの近くの中華料理店。RC の学長がお待ちだった。我々の体調管理に気を使っている感じがした。料理の内容は、カニとかエビなどが登場した。宴は 21 時まで開かれ、21 時 5 分にはホテル着。

5. 2009 年 9 月 10 日（木）：日本学生支援機構、散髪 & マッサージ

7 時起床。7 時 40 分朝飯。9 時発でバンコク市内へ。本日の目的は日本学生支援機構のバンコク事務所訪問である。10 時過ぎに事務所のあるビルに着いた。場所は 10 階で、日本関係の事務所が多い。セキュリティチェックがあった。現地スタッフは 2 人の若い女性で、日本留学の経験があって、日本語が出来た。これはありがたい。部屋のスペースはかなり広く、壁の書棚には、日本の各大学のパンフレット類が並べられていた。人気の大学は国立大学で、授業料の安い大学が良いらしい。タイでの日本留学試験の受講生は 6 月は 90 人程度、11 月は 100 人程度とのことだった。バンコクの日本語学校の数は 44 校程度で、規模は小さいらしい。

10 時 45 分に辞去し、11 時 05 分ホテル着。12 時から昼飯ということで、隣のショッピングセンターを見学した。地下 1 階にヘアサロンがあったので 30 分ほど髪の毛をカットした。基本料金は 300 パーツと高い。洗髪とか髭剃りなどをいれると、この倍になるらしい。ハサミで髪を切り出して、作業が遅いので、マシーンと連発して、やっとバリカンとなった。

12 時 15 分から 1 時間ほどショッピングセンター内のレストランで昼飯。カレーうどんは 115 パーツだった。その際、国立の観光短大の先生が同席して、色々話しをした。特色として、メディカルツーリズムのコースがあるとか。簡単に言えば、タイ式マッサージである。機会があれば、大学で「日本の温泉の話をして欲しい」と言われた。もちろん OK…。

その後、13 時 30 分からマッサージをした。60 分 200 パーツ。30 分だと 120 パーツ。タイ式はアクロバット式で、身体が痛い。店を出る時、マッサージ師が沢山椅子に座って、客待ちをしていた。どうやら指名が出来らしい。その後はスターバックスに行った。タンブラーを買って、1 個は 500 パーツと高い。日本のようにタンブラーを買うと一杯サービスというシステムはないらしい。少しだけの値引きがあるようだった。

15 時にホテルを立って、15 時 30 分には空港着。18 時 50 分にテイクオフ。シンガポール経由で関西国際空港へ。シンガポールのチャンギ空港では待ち時間があったので、セブンイレブンなどで買物をした。タイのパーツは使用不可で、日本円は OK だった。千円札 1 枚でカップ麺 3 個・タイガーバーム 2 個買った。空港内でルイヴィトンなどのブティックを探したが、見当たらず、インフォメーション嬢の話では市内にしかないとのこと。

6. 2009 年 9 月 11 日（金）：機中⇒大阪

SQ 618 便は、シンガポールを未明の 1 時 40 分（日本時間 2 時 40 分）にテイクオフ。約 6 時間のフライトは映画を見ながら過ごし、うとうとしている内に、8 時 30 分、ほぼ定刻通りに関西国際空港に着いた。9 月 11 日は記念の誕生日…！

V. おわりに

2009 年は、様々な形態の海外旅を経験した。今回は主に国際会議と大学間の国際交流を報告したが、会議・交流と言えども、日本との違いをあらゆる局面で経験した。まさに、海外旅行は異文化理解だと思う。お世話になった方々に、たえず感謝をしながら、創造・発見の旅を末永く続けたいものである。

[付記] 本稿は、今日新聞（別府市の夕刊紙）2010 年正月号に掲載したものに加筆・修正したものである。